

# 平成27年度アドバイザー派遣事業実施レポート

西伯郡小学校授業づくり研究会

- 1 期 日 平成27年6月24日（水） 及び 11月25日（水）
- 2 場 所 伯耆町立八郷小学校（両日とも）
- 3 研修内容

## （1）研修テーマ

個に応じた確かな学力の定着と人間関係力の育成

～『教えて考えさせる授業』を通して確かな学力の定着を図る～

本研究会では、各教科において『教えて考えさせる授業』のスタイルを活用し工夫することにより、児童は見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができ、確かな学力の定着が図れると考える。また、一人一人の良さを認め合い、お互いが尊重され、何でも言い合える人間関係を作ることができれば、安心して自分の思いを語り、意欲的に学習に取り組む児童が育つと考え、本テーマを設定した。

## （2）指導助言者

東京大学大学院教育学研究科教育心理学コース

教授 市川 伸一 先生（両日とも）

学力の定着を図るには、習得すべき内容を明確にし、学習の中で繰り返し使いこなしていく場面を設けることが不可欠である。『教えて考えさせる授業』は、習得型の授業スタイルであり、理論面の指導とともに実際の授業につながる演習指導を行っていただける東京大学の市川伸一先生にご指導を仰ぎたいと考えた。

## （3）『教えて考えさせる授業』の授業公開（両日とも）

※別紙指導案参照【6月：6年（算数）、11月：4年（算数）・5年（算数）】

## （4）授業研究会

【6月24日】

### ○ 三面騒儀法によるグループ協議

- ・予習がしっかりできていた。めあて提示のタイミングは学校で統一してはどうか。
- ・教える部分が淡々としていたので、児童との思考のやり取りを取り入れながら進めた方がよかった。児童の困難さを確認し押さえる。
- ・実際に何ができればいいかが分からないまま、理解深化に進んでいってしまったので、具体物をつかったり、色分けしたりするなどの視覚的支援があればよかった。
- ・理解深化は、最初の分数の大小の概念がないまま進んで行ってしまったので少し立ち止まってもよかった。
- ・振り返りで他の児童のよい発言を吸い上げた発表がありよかった。

### ○ 指導助言

- ・昨年度と比べ、指導案はもとより、無理のない授業展開ができるようになってきている。
- ・数式や数直線を用いても当たり前になることを実感させ、それらのきまりを説明する形を理解深化にもってくるのもよかったのではないかな。
- ・理解確認、深化ではもう少し、児童同士の交流があればいいのではないかな。原則、易し

い課題はペアで、難しい課題にはグループなどで。協同的に学ぶ流れに。

- ・八郷小全体の授業について、指導案がとてもシンプルで統一感がある。習得型の学習では、あくまで教師の説明があつてのこと。指導案で先に書くのは妥当ではないか。
- ・指導案の期待する児童の姿と困難さを克服する内容を同じように盛り込んでいけばいいのではないか。
- ・自分で授業をVTRに撮って見てみるとよい。

【11月25日】

○ 三面騒儀法によるグループ協議

- ・「問題文を書く」「分かっていること、求めることに線を引く」だけでも十分だし、本時の時間短縮になる。(4年・5年)
- ・板書を振り返る時間を取ったことが、自己評価に有効につながっていた。(4年)
- ・前時問題のやり方でできそうだった児童が、絵図を見ながら答えを確認してできないことが分かって、驚いた瞬間がよかった。(5年)
- ・「理解深化」でペアやグループ活動の時間がなかった。それまでの学習過程をコンパクトにして、時間を生み出す必要があった。(5年)

○ 指導助言

- ・3要素2段階の逆思考の問題で、理解深化課題は単純に逆演算になるものだけでなく、図をかいて考える必要がある問題をさせてもよかった。また、関係図だけでなく線分図も思考に役立つ。(4年)
- ・理解深化課題の代案として、「P,R,A型の仲間の文字を考えよう」がよかったかもしれない。(5年)
- ・「指導案」に統一感があった。「期待する児童像」の欄に「困難度査定と指導の工夫」があり、それに基づいた支援が具体的に考えられておりよかった。
- ・「教える」部分をコンパクトにしていくためには、自分の授業ビデオをチェックするなどして課題を認識することが大切である。
- ・「深化問題」の実践例を残す工夫をしていけば、学校の財産となっていくと思う。  
④ 作った問題を教科書に貼っておく。
- ・理解深化で学び合いを活性化するためには、「教える」場面で必要なことを十分教えておくことが重要である。またヒントをグループに出してやることも有効である。
- ・アクティブラーニングは、能動的、協同的な活動を通した学習であり、「理解確認」の場面ではペアで教え合うことが第1歩と言える。「理解深化」の場面では教師が与えた課題をみんなで解決していくことがそれに当たると言える。

#### 4 研修の成果

- ・研究授業2学級に加え全学級が授業を公開し市川先生より指導をいただくことにより、全員が一丸となって研究会の臨むことができた。
- ・「教える」での協同的な学び合いに向け課題が多かったが、公開授業を通して具体的な指導をいただき展開のポイントがつかめたように感じた。
- ・「考えさせる」を深まりのあるものにするためには、「教える」をコンパクトに分かりやすく教えることがいかに大切なことか、あらためて実感した。